

社会科学基礎理論

科目目的・到達目標：大学院での学習と研究に必要な社会科学の基礎理論を学びます。内容は、法学研究科にかぎらず、社会科学系の学問すべてに共通するものです。

授業概要：

テーマ：社会理論の探求——19世紀から21世紀へ

内容：19世紀前半に西ヨーロッパで誕生した近代市民社会の自己認識が、20世紀にかけてロシア・ソ連、アメリカ合州国、日本、さらにはその他のアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国に広がり、現代社会理論の底流となってきた経過を見ます。ヘーゲル、コント、マルクス、スペンサー、エンゲルスなどに具現した「総合の精神」、19世紀から20世紀への転換を準備した「科学と意志」の問題、20世紀前半から後半にかけて社会主義・社会計画・民族解放などで世界を揺るがした「主意主義」の功罪、西洋近代を超克し21世紀の新時代を開くために登場した「構造と主体」の問題、という4つのテーマを検討します。社会理論を人類史の大きな流れのなかでとらえ、自らの生き方のうちに血肉化していくための視座を形成することが目的です。

方法：問題提起になるような講義をおこない、それについての意見を出し合う形で、討論します。討論をつうじて、社会科学の基礎理論を身につけてもらえると良いと思います。学期末にレポートも出してもらいます。

授業計画

序 社会理論とは何か？

第一部 総合の精神（19世紀、ドイツ、フランス、イギリス）

1 哲学的総合と社会理論（スミス、ヘーゲル） 2 総合社会学の形成（サン＝シモン、コント） 3 経済学批判の社会理論（マルクス） 4 社会進化論と個人主義（スペンサー） 5 弁証法的・史的唯物論（エンゲルス）

第二部 科学と意志（19－20世紀、フランス、イギリス、ドイツ、アメリカ）

6 科学としての社会学（デュルケム） 7 実証主義と社会主義（ウェッブ夫妻、ウォーラス、他） 8 社会学と意志の問題（テンニース、ジンメル） 9 社会民主主義の社会理論（カウツキー、ベルンシュタイン、ルクセンブルグ） 10 合理化と変革主体の理論（マックス・ウェーバー） 11 個人主義的自由主義と社会心理学（ウォード、パーク、ミード、他）

第三部 主意主義の功罪（20世紀、ロシア・ソ連、ヨーロッパ、アジア、アメリカ）

12 政治主義とマルクス主義社会学（プレハノフ、レーニン、ブハーリン） 13 精神分析とマルクス主義の革新（フロイト、ライヒ、フランクフルト学派） 14 現代社会批判から社会計画論へ（ケインズ、ルカーチ、グラムシ、マンハイム） 15 資本主義分析と主体性の問題（日本のマルクス主義と近代主義） 16 社会主義と民族解放運動の社会理論（戦後ソ連および現代中国の社会学） 17 行為と社会体系の一般理論（パーソンズ、マートン、その他）

第四部 構造と主体（20－21世紀、先進資本主義諸国、第三世界、日本、世界）

18 批判的・急進的社会科学運動（ラディカル社会科学運動と批判社会学） 19 生成する社会とシステムの内閉（現象学の影響と新システム理論） 20 普遍的構造から普遍的流動へ（構造主義からポスト構造主義へ） 21 周縁からの批判による脱構築（従属理論からポストコロニアリズムへ） 22 平和・民主主義と先導性の社会理論（高度成長後日本の社会理論） 23 大自然主義と梵我一如の社会理論へ（世界社会変動とヘゲモニー移動）

評価方法：基本的には、毎回の授業への参加（出席と討論への参加）、および前半と後半に提出を求めるレポートで評価します。

ホームページとテキストのダウンロード

本授業のことは庄司のホームページ <http://www.kokshoji-globalcitizen.com> の「社会理論の探求」に掲示されます。

毎回必ず見て確認し、とくにテキストの新しい部分はダウンロードしてください。ホームページに載せていない資料などは授業のさいに配布します。

伝達事項（授業についての伝達事項がある場合は、以下に掲示します）